

# AstraZeneca PLC

## 2007年第2四半期・上半期業績

「上半期業績は堅調。

臨床第III相に進んだ2つの新規化合物とMedImmuneの統合により  
更なるパイプラインの強化を達成」

### ファイナンシャルハイライト

グループ	第2四半期	第2四半期	前年 同期比 %	CER %	上半期	上半期	前年 同期比 %	CER %
	2007 100万ドル	2006 100万ドル			2007 100万ドル	2006 100万ドル		
売上高	7,273	6,625	+10	+6	14,239	12,805	+11	+8
営業利益	1,973	2,131	-7	-11	4,143	4,107	+1	-1
税引前利益	1,991	2,209	-10	-14	4,258	4,253	-	-2
1株当たり利益	\$0.95	\$1.02	-7	-11	\$1.97	\$1.92	+3	+1
調整後1株当たり利益* (MedImmune社買収および 事業再構築費用控除後)	\$1.19	\$1.02	+17	+13	\$2.25	\$1.92	+17	+15

\* 2007年第2四半期および上半期の1株当たり利益は、1株当たり損失0.06ドルのMedImmune社買収の影響（6月1日からの連結取引、資金調達に関わる正味支払い利息、無形資産の償却、買収に関わる一時費用を含む）を控除。2007年第2四半期および上半期の1株当たり利益は、進行中ならびに新たに開始された生産性向上プログラムに関する事業再構築費用を、それぞれ0.18ドル、0.22ドル控除。

伸び率は恒常為替レート（CER）ベース

- 第2四半期の売上は6%増の72億7,300万ドルでした。MedImmune社の買収および事業再構築の費用を控除後、営業利益は11%増の24億5,200万ドル、1株当たり利益は13%増の1.19ドルでした。
- 第2四半期業績には、MedImmuneの1億300万ドルの営業損失が計上されています。事業再構築の費用は3億7,600万ドルでした。
- 2010年までに9億ドルを超える年間利益を達成するために、推定コスト16億ドルの事業再構築の取り組みが大幅に強化されました。
- MedImmune社の買収は成功裡に完了しました。相乗効果は予定通りです。
- 上半期、5つの主力成長製品の合計売上は15%増でした：Nexium™（4%増）、セロクエル™（12%増）、クレストール™（47%増）、アリミデックス™（12%増）、Symbicort™（22%増）。Symbicort™は6月に米国で上市されました
- 上半期の買収前のフリーキャッシュフローは26億6,200万ドルでした。上半期の株主への現金配分は、買い戻された株の総額20億3,200万ドルを含む39億1,000万ドルでした。
- 取締役会は、第1回中間配当を6%引き上げ、0.52ドルとすることを勧告しました。
- 2つの新規化合物（糖尿病治療薬dapagliflozinと前立腺がん治療薬ZD4054）が第III相に移行し、第III相プロジェクトの総数が8つとなりました。

**最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：**「第2四半期の業績は堅調で、当社は年間目標の達成に向けて順調に推移しています。上半期、製品パイプラインの強化において素晴らしい進捗を遂げました；開発第III相に進んだ2つの新規化合物に加え、MedImmune社買収の成功は、当社のサイエンスの基盤を変革するようなインパクトを与えるものです。これにより、当社は大幅に短縮された期間でバイオ医薬品戦略を達成する十分な体制が整いました。」

2007年7月26日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

## MedImmune 社の買収

MedImmune社の買収は、6月に完了しました。その結果、アストラゼネカの連結財務業績には、2007年6月1日以降MedImmune社の業績が含まれます。MedImmune社分の加算により、第2四半期の売上高は報告ベースで2,400万ドル増加しましたが、1億300万ドルの営業損失により、結果として1株当たり利益0.06ドルのマイナスとなりました。営業損失には、無形資産償却費用3,500万ドルと買収に関わる一時費用4,900万ドルが含まれています。1株当たり利益0.06ドルのマイナスには、買収資金に対する3,700万ドルの増分利息（MedImmune社の利息収入）が含まれています。

## 第2四半期

第2四半期の売上高はCER（恒常為替レート）ベースで6%増、報告ベースで10%増加し（為替変動のプラス影響4%を含む）、米国の売上高は6%増加しました。米国以外の売上高も、新興市場における21%の堅調な増加により、6%増となりました。

第2四半期の営業利益は、19億7,300万ドルでした。これには、以前発表したグローバルサプライチェーンの生産性向上の取り組みに伴う1億9,900万ドルの事業再編費用だけでなく新規の生産性向上の取り組み関連費用1億7,700万ドルが含まれています。これら事業再編費用や上記のMedImmune社関連費用を控除すると、営業利益の実質増加率は11%でした。

研究開発費は20%増加し、MedImmune社関連の2,800万ドルを含む12億2500万ドルとなりました。MedImmune社関連費用と当四半期の研究開発部門の事業再編費用2,900万ドルを除くと、研究開発費は14%増でした。

第2四半期の販売・一般管理費は、10%増の26億500万ドルでした。MedImmune社の販売・一般管理費は、買収に伴う無形資産償却費用3,500万ドルと一時費用4,900万ドルを含む1億2,000万ドルを計上しました。MedImmune社の販売・一般管理費と事業再編費用1億4,800万ドルを控除すると、実質販売・一般管理費は、2006年同期を2%下回ります。

第2四半期計上1株当たり利益は、報告ベースで0.95ドルとなり、MedImmune社関連費用と事業再編費用控除後の調整後1株当たり利益は、2006年の1.02ドルと比較して13%増の1.19ドルでした。

5つの主要製品（Nexium™、セロクエル™、クレストール™、アリミデックス™、Symbicort™）の当期売上合計は12%増の37億9,700万ドルでした。

第2四半期のNexium™売上高は13億1,200万ドルで、CERベースで変動はありませんでした。米国の売上高は、オメプラゾールの後発品が米PPI市場の売上増の大部分を獲得したために、1%減少しました。Nexium™は、他社のPPIブランドのシェアを継続的に獲得しています。米国の売上減は、米国以外の市場におけるNexium™の2%の売上増で相殺されました。

セロクエル™の当四半期の売上高は、11%増の9億6,300万ドルでした。双極性障害への使用が引き続き拡大したことによる堅調な売上数量増加の結果、米国の売上高は9%増となり、当該適応に対する1処方当りの収入減を一部相殺しました。米国以外の売上高は、17%増となりました。米国では成人患者における統合失調症治療薬Seroquel XR™の発売が8月に予定されています。欧州でのSeroquel XR™の承認申請は、現在当局による審査中です。

第2四半期のクレストール™の売上高は、38%増の6億7,800万ドルでした。米国の売上高は30%増、米国以外の市場の売上高は、日本での本格発売後の好調な立ち上がりで寄与し、47%増となりました。

アリミデックス™の当四半期の売上高は米国で14%増、米国以外の市場で7%の売上増となり、全体で10%増加しました。

第2四半期のSymbicort™の売上高は、6月25日の発売に先行した米国での在庫用出荷分3,000万ドルを含め、25%増の4億1,400万ドルでした。米国以外の市場における売上高は、15%増でした。

## 上半期

上半期売上高は、CERベースで8%増、報告ベースでは11%増でした。為替変動が報告ベースの売上高に3%のプラス影響を与えました。米国の売上高は9%増となり、米国以外の市場では、ROWの既成市場での売上高は4%増、ROWの新興市場では17%の売上増を達成しました。5つの主要製品の上半期連結売上は、クレストール<sup>TM</sup>、セロクエル<sup>TM</sup>およびSymbicort<sup>TM</sup>の堅調な伸びにより、15%増の74億1,100万ドルでした。

営業利益は、為替変動により2%のプラス影響を受けましたが、CERベースで1%減の41億4,300万ドルでした。2007年上半期に計上された事業再編費用およびMedImmune社の影響分の4億5,800万ドルを控除すると、実質営業利益は13%増でした。1株当たり利益は、上半期1.97ドルでした。MedImmune社関連費用と事業再編費用控除後の調整後1株当たり利益は2.25ドルで、2006年の1.92ドルと比較して15%増でした。

## 生産性の向上

経営陣は、ますます厳しくなる外部環境において競合力のある財務業績を推進するためには、組織のあらゆる部門における生産性および効率の改善が戦略的に不可欠であると確信しています。

本年2月、当社はグローバルサプライチェーンにおける資産活用改善のための3カ年計画を発表しました。その後、当社は、欧州の営業・マーケティング、情報サービスおよび事業支援インフラに関わる追加プログラム並びに研究開発活動の再編計画を策定し、取締役会はそれらを承認しました。

これら全プログラムの総費用は、サプライチェーンプログラムの範囲拡大を含め、16億ドルに達することが見込まれ、そのうち4億5,800万ドルは上半期の業績に計上しています。すべてのプログラムが実行された場合、実質人員削減数は、約7,600人となります。これらのプログラムが完了した時点での年間の利益は、2010年には（現在の為替レートで）9億ドルを超えると見込まれています。人員の削減はすべて、労使協議会、労働組合およびその他雇用者代表者と協議のうえ、各地の労働法に従って進めます。（個々の生産性向上プログラムの費用、期限および予想利益の詳細については、11ページを参照。）当社は、コストベースの削減および更なる生産性向上の機会を引き続き探求していきませんが、これらが2007年の費用に大きく影響することはないものと思われま

## MedImmune社の相乗効果

買収以降、販売・一般管理費（1億500万ドル）、製造（2,500万ドル）、小分子研究開発（1億1,500万ドル）および買収により不要となったアストラゼネカのバイオ医薬品戦略の構築に対する投資（2億500万ドル）の計4億5,000万ドルに上る相乗効果が出ました。これらの相乗効果は、2010年には5億ドル超まで増加することが見込まれています。実施費用は、3億7,500万ドル前後です。同社買収は、2009年まで1株当たり中核利益に統合されます。（1株当たり中核利益の定義については、以下と14ページ参照）。

## 1株当たり中核利益

MedImmune社の買収と2008年上半期のメルク社との提携終了契約に関わる様々な支払いにより、損益計算書は今後の多大な会計上の償却費用による影響を受けることが予想されます。進行中の事業再編の費用に加え、これらの費用に鑑み、当社は、IFRS（国際財務報告基準）に従った1株当たり利益以外に、別の業績指標が必要であるとの結論に達しました。この代替指標は「1株当たり中核利益（Core EPS）」と名付けられます。当社は、第2四半期業績から始め、今後は1株当たり中核利益を報告しますが、2008年の収益予想は、この指標に基づくことになることが予想されます。当該指標については、14ページに定義しています。

## 今後の見通し

MedImmune社の買収完了に伴い、当社の通年収益予想の再設定が必要となりました。

この再設定には、今年初めに発表し、第1四半期で再確認した3.80ドル～4.05ドルの1株当たり利益目標範囲を起点として使用します。この目標範囲には、Toprol-XL<sup>TM</sup>（および承認済みの後発品）の米国売上高および生産性向上の取り組みに伴う一時費用は控除されています。アストラゼネカ事業の実質業績に基づき、当該範囲を1株当たり利益3.90ドル～4.05ドルに修正します。

MedImmune社の事業が6月1日から連結されているため、通年業績には約2億4,500万ドルの無形資産償却、第2四半期に計上された買収に関わる一時費用4,900万ドルおよび相乗効果プログラムによる初期費用と利益が含まれることとなります。当社のMedImmune社関連財務費用を含めた2007年1株当たり利益の予想は、現時点で1株当たり3.60ドル～3.75ドルの範囲（米国でのToprol-XL™と事業再編費用を除く）です。

さらに、当社は、16億ドルの生産性向上プログラム総費用のうち約9億ドル（1株当たり0.44ドル）が2007年に計上されると予想しています。

上半期、米国におけるToprol-XL™の売上高は、1株当たり利益に0.27ドル寄与しました。後発品の競合は、25mg錠製品のみとの現在の予想に基づくと、Toprol-XL™製品群の米国売上高は1月当たり約0.04ドルの1株当たり利益をもたらすと予想されますが、この予想は市場状況により更新されます。

**注意：**当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、上訴の決着前にToprol-XL™の後発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストール™、Nexium™、セロクエル™、Symbicort™、アリミデックス™）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確定要素については、2006年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

## 売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
Nexium™	1,312	1,283	-	2,620	2,472	+4
Losec™/Prilosec™ (オメプラール)	298	356	-19	577	700	-20
合計	1,630	1,654	-4	3,237	3,205	-1

- 米国でのNexium™の当四半期売上高は8億5,500万ドルで、前年同期比1%減でした。他社のブランドの総処方数が下落する中、Nexium™とオメプラールの後発品の双方が堅調な売上数量の増加を示した2006年とは対照的に、今期はオメプラールの後発品が市場拡大の大部分を獲得し、処方された錠剤量は48%増加しました。当四半期のNexium™の総処方数は3%増となり、他社のブランドの総処方数は増減なしでした。
- 上半期のNexium™の米国内売上高は4%増の17億1,700万ドルでした。
- 第2四半期の米国以外でのNexium™売上高は2%増加し、新興市場（中国での発売が貢献）とカナダの売上増が、特にドイツとイタリアなどの既成市場での下落を相殺する以上のものでした。
- Nexium™の米国以外での上半期売上高は4%増の9億300万ドルでした。
- 米国でのPrilosec™の売上高は第2四半期で33%増、上半期でも14%増でした。
- 米国以外でのLosec™の売上高は、日本と中国では伸び続けているものの、上半期で26%減となりました。

### 循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
Crestor™	678	480	+38	1,306	867	+47
Seloken™/Toprol-XL™ (セロケン)	457	478	-6	901	934	-5
Atacand™	318	276	+9	614	530	+10
Plendil™ (スプレンジール)	74	70	-	139	142	-7
ゼストリル™	76	78	-8	156	153	-3
合計	1,755	1,540	+10	3,408	2,930	+13

- 米国での当四半期の Crestor™の売上高は3億5,300万ドル、前年比30%増でした。米国スタチン市場の総処方数は当四半期に10%増加したのに対して、 Crestor™は28%増加しました。米国スタチン市場の総処方数に占める Crestor™のシェアは2007年6月に8.6%で、2006年12月とほぼ同じでした。これはやや残念な結果ではありますが、同期のシンバスタチンのマーケットシェアが4ポイント以上も増加する中で粘り強い実績となりました。対照的に、マーケットリーダーであるリピートルは、マーケットシェアを4ポイント以上失う結果となりました。
- 上半期の Crestor™の米国の売上高は42%増の6億9,600万ドルでした。
- Crestor™の米国以外での第2四半期の売上高は47%増の3億2,500万ドルでした。上半期の売上高は54%増の6億1,000万ドルでした。
- 第2四半期の Crestor™の欧州での売上高は22%増、カナダでは48%増となりました。 Crestor™のスタチン市場の総処方数におけるシェアは、現在カナダで19.7%、オランダで11.8%、イタリアで

20.2%、フランスで14.6%となっています。

- 日本での Crestor™ 通常発売は、好調なスタートを切り、2007年5月に金額ベースでマーケットシェア 6.7%を達成しています。
- Par社に許可した後発品の売上を含む米国での Toprol-XL™ 製品群の売上高は第2四半期に10%減少し、上半期では8%減少しました。後発合との競合は当四半期には25 mg製剤に限られており、これら後発競合製品は第2四半期に本製品群全体の調剤処方量の21%を占めました。
- 米国以外の市場における Seloken™ の売上高は、第2四半期で10%増、上半期では新興市場の堅調により8%増でした。
- 米国市場での Atacand™ の売上高は第2四半期に2%増、上半期でも5%増でした。
- 米国以外の市場における Atacand™ の売上高は第2四半期に13%増、上半期でも12%増でした。

## 呼吸器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
Symbicort™	414	308	+25	768	585	+22
パルミコート™	320	301	+4	721	629	+12
Rhinocort™	95	102	-9	187	187	-2
アコレート™	19	21	-10	38	39	-3
Oxis™	23	22	-	46	44	-2
Synagis™ *	16	-	n/a	16	-	n/a
FluMist™ *	-	-	n/a	-	-	n/a
合計	927	791	+12	1,858	1,556	+14

\*これら MedImmune 社製品の売上高は、2007年6月1日よりアストラゼネカの会計に連結されました。結果として、それ以前の期間の売上高は含まれていません。

- 第2四半期の Symbicort™ の売上高は25%増で、6月25日の発売に先行した米国内での在庫用出荷分3,000万ドルを含む4億1,400万ドルでした。米国以外での売上高は、特に Symbicort™ SMART™ が導入された市場における市場拡大とシェア獲得の結果、15%増でした。
- Symbicort™ の上半期売上高は22%増の7億6,800万ドルでした。
- 米国での第2四半期におけるパルミコート™ の売上高は、主にパルミコート™ 吸入液の売上高が23%増となった結果7%増加しました。上半期の米国でのパルミコート™ 製品の売上高は、19%増でした。
- 米国以外の市場におけるパルミコート™ の売上高は第2四半期に1%減、上半期では2%増でした。
- Rhinocort™ Aqua の米国での上半期売上高は5%減、総処方数は12%減でした。
- 呼吸器系製品の売上高には、計1,600万ドルの Synagis™ 1ヶ月分の売上高が含まれています。Synagis™ の売上高は季節変動が大きく、大部分の売上が呼吸器合胞体ウイルス発生時期である第4および第1四半期に計上されます。

## オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
アリミデックス™	430	379	+10	831	714	+12
カソデックス™	331	306	+5	641	580	+7
ゾラデックス™	275	250	+6	524	481	+5
イレッサ™	61	62	-	113	112	+2
Faslodex™	53	47	+9	102	91	+8
ノルバデックス™	20	24	-17	39	45	-13
Ethyol™ *	8	-	n/a	8	-	n/a
合計	1,195	1,071	+8	2,291	2,029	+9

\*このMedImmune社製品の売上高は、2007年6月1日よりアストラゼネカの会計に連結されました。結果として、それ以前の期間の売上高は含まれていません。

- 当四半期の米国市場でのアリミデックス™の売上高は14%増加し、1億7,800万ドルに達しました。アリミデックス™の総処方数は上半期で9%増加しました。アリミデックス™は、総処方数の38%を占める市場シェアを有する乳がん内分泌療法におけるマーケットリーダーであり、上半期の売上高は20%増でした。
- 米国以外の市場におけるアリミデックス™の売上高は第2四半期および上半期ともに7%増加しました。上半期の売上高は日本で13%増、新興市場では16%の増加となりました。
- 米国市場でのカソデックス™の売上高は第2四半期に1%増加し、上半期でも6%増加しました。
- 米国以外の市場におけるカソデックス™の売上高は第2四半期に6%増加し、上半期でも7%増加しました。上半期の売上高は西ヨーロッパで7%増、日本では15%増でした。
- イレッサ™の上半期売上高は2%増の1億1,300万ドルでした。上半期の売上高は日本で6%増、中国では40%増となりました。
- Faslodex™の上半期売上高は8%増加しました。米国での売上高は変わらず、その他の市場での売上高は18%の増加となりました。

## ニューロサイエンス

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
セロクエル™	963	849	+11	1,886	1,656	+12
ゾーミック™	106	103	-1	213	196	+5
合計	1,293	1,178	+7	2,520	2,314	+6

- 当四半期の米国市場でのセロクエル™の売上高は9%増の6億7,800万ドルでした。総処方数は上半期に12%増加し、この伸びは抗精神病薬市場の成長率のほぼ2倍に相当します。用量が減らされた結果1処方当たりの収入がやや低くなっているものの、双極性障害に伴う躁ならびに鬱の両期に適応がある唯一の製品として、この領域でのセロクエル™の使用は拡大し続けています。
- 米国市場でのセロクエル™の売上高は上半期で10%増でした。
- セロクエルXR™は米国で8月に発売を開始する予定です。セロクエルXR™は、有効量に2日目に達することで処方量の調整が改善され、成人統合失調症患者の治療には1日1回の処方であるという利点もあります。欧州規制当局へのセロクエルXR™の承認申請は現在当局による審査中です。
- 米国以外におけるセロクエル™の売上高は、第2四半期および上半期ともに、西ヨーロッパおよび新興市場での堅調な売上増加により17%増となりました。
- ゾーミック™の上半期売上高は5%増加し、米国では3%増、米国以外では5%増でした。

## 地域別売上

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2007	2006		2007	2006	
北米	3,542	3,340	+6	7,030	6,472	+9
米国	3,268	3,077	+6	6,502	5,959	+9
ROWの既成市場*	2,842	2,586	+3	5,506	4,941	+4
ROWの新興市場	889	699	+21	1,703	1,392	+17

\*ROW (その他) の既成市場には西ヨーロッパ諸国 (フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど)、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 第2四半期の米国での売上高は6%増となり、クレストール™、セロクエル™、アリミデックス™およびSymbicort™の在庫用出荷分が売上増の大部分を占めています。
- ROWの既成市場における売上高は、第2四半期で3%増加しました。西ヨーロッパの売上高は、Symbicort™、クレストール™およびセロクエル™の売上増が Losec™ や Nexium™ における減少を相殺したため1%増となりました。日本での売上高は、クレストール™ とオンコロジー製品が売上増加分の大部分に寄与し、8%増でした。
- 第2四半期の新興市場での売上高は21%増加しました。当四半期における欧州新興市場での売上高は19%増、中国での売上高は25%増でした。



## 営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率は恒常為替レート（CER）

### 第2四半期

報告ベースで売上高は10%増、営業利益は7%減でした。恒常為替レート（CER）ベースでは売上高は6%増、営業利益は11%減でした。MedImmune社買収による影響と事業再編費用を控除すると、営業利益は11%増加しました。

第2四半期	営業利益 100万ドル	CER %	1株当たり 利益	CER %
報告ベース	1,973	-11	\$0.95	-11
MedImmune社関連費用	103	n/a	\$0.06	n/a
事業再編費用	376	n/a	\$0.18	n/a
<b>実質</b>	<b>2,452</b>	<b>+11</b>	<b>\$1.19</b>	<b>+13</b>

為替変動により売上高は4%増、営業利益も4%でした。前年同期に比べると、ドルはユーロに対して7%弱く、そのために売上高が増加しましたが、スウェーデンコロナ（7%）および英ポンド（8%）に対しても弱かったために、費用も増加しました。これらの為替変動の結果、当期の1株当たり利益は0.04ドル増加しました。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益、在庫変動および引当金の推移などの要因を調整後も、報告ベースの成長率の6%をやや上回っています。米国以外の売上高は6%増加しました。

第2四半期の営業利益率は報告ベースで27.1%でした。MedImmune社の営業損失1億300万ドルと事業再編費用3億7,600万ドルを控除すると、実質営業利益率は33.8%で、2006年同期と比べて1.6ポイント増でした（下表参照）。

第2四半期	報告ベース %	事業再編費用 100万ドル	MedImmune社 関連費用 100万ドル	実質 %	前年同期比 <sup>1</sup>
売上総利益	77.1	(199)	18	79.8	+0.8
物流費	0.9	-	(1)	0.9	-
研究開発費	16.9	(29)	(28)	16.1	-1.7
販売・一般管理費	35.8	(148)	(120)	32.2	+2.3
その他の営業収入	3.6	-	28	3.2	+0.2
<b>営業利益</b>	<b>27.1</b>	<b>(376)</b>	<b>(103)</b>	<b>33.8</b>	<b>+1.6</b>

第2四半期の実質売上総利益率79.8%は、前年同期と比べて0.8ポイント高くなりました。売上高の4.2%であるメルク社への支払い率は前年よりも0.4ポイント低下しました。為替による0.4ポイント増により、ライセンス料の増加による0.4ポイントのマイナス影響を相殺しました。これら追加要因の影響を控除すると、売上総利益率は継続的な業務効率の向上により、0.4ポイント増加しました。

当四半期における実質研究開発費は、主に、研究開発活動の増加ならびに、特に、Cambridge Antibody Technologyおよびブリストル・マイヤーズ スクイブとの業務提携に関連した社外提携戦略の影響により、前年同期比14%増となりました。

実質販売・一般管理費23億3,700万ドルは、営業・マーケティング活動の業務効率化が推進されたため2006年第2四半期より2%減となりました。MedImmune社の併合により、買収に伴う3,500万ドルの無形資産償却および4,900万ドルの一時費用を含め、1億2,000万ドルの追加となりました。

<sup>1</sup> 正数は前年同期に対する営業利益へのプラスの影響を示す。

その他営業収入2億3,100万ドルは2006年の第2四半期より3,100万ドル増加し、営業利益率は0.2ポイント改善されました。第2四半期には、当初2007年下半年に予定されていたスカンジナビアでの非主要感染症製品の売却により実現した1億3,900万ドルの利益が含まれています。米国の麻酔・鎮痛薬製剤部門のAbraxis BioScience社への売却益として2006年第2四半期に1億900万ドルを計上しました。他のMedImmune社関連収入は、1,700万ドルの一時利益を含む2,800万ドルでした。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます；当四半期の正味利益は800万ドルでした（前年同期は2,000万ドルの損失）。他の公正価格変動額の1,000万ドルは損益計算書上別の項目に計上されました。

## 上半期

報告ベースで売上高は11%増、営業利益は1%増でした。恒常為替レート（CER）ベースでは売上高は8%増、営業利益は1%減となりました。MedImmune社買収による影響と事業再編費用を控除すると、営業利益は13%増でした。

上半期	営業利益 100万ドル	CER %	1株当たり 利益	CER %
報告ベース	4,143	-1	\$1.97	+1
MedImmune社関連費用	103	n/a	\$0.06	n/a
事業再編費用	458	n/a	\$0.22	n/a
<b>実質</b>	<b>4,704</b>	<b>+13</b>	<b>\$2.25</b>	<b>+15</b>

為替変動により売上高は報告ベースで3%増、営業利益は2%増でした。累計で、為替により1株当たり利益は0.03ドル増加しました。今後為替レートが変動しなければ、本年1株当たり利益に対し、これ以上の為替差益は発生しないものと予想されます。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益、在庫変動および引当金の推移などの要因を調整後も、報告ベースの成長率の9%とほぼ一致します。米国以外の売上高は7%増でした。

上半期の営業利益率は報告ベースで29.1%でした。MedImmune社関連費用と事業再編費用4億5,800万ドルを控除すると、実質営業利益率は2006年より1.0ポイント増の33.1%でした（下表参照）。

上半期	報告ベース %	事業再編費用 100万ドル	MedImmune社		実質 %	前年同期比
			関連費用 100万ドル			
売上総利益	77.8	(281)	18		79.8	+0.4
物流費	0.8	-	(1)		0.9	-
研究開発費	16.8	(29)	(28)		16.4	-2.2
販売・一般管理費	33.9	(148)	(120)		32.0	+2.4
その他の営業収入	2.8	-	28		2.6	+0.4
<b>営業利益</b>	<b>29.1</b>	<b>(458)</b>	<b>(103)</b>		<b>33.1</b>	<b>+1.0</b>

実質売上総利益率は79.8%であり、前年同期より0.4ポイント上昇しました。売上高の4.3%であるメルク社への支払い率は前年よりも0.3ポイント低下しました。為替の影響で売上総利益率は0.1ポイント増加し、ライセンス料の支払い増により0.4ポイント減少しました。AGI-1067開発の終了に伴う固定資産および納入業者に対する契約済債務の償却費2,400万ドルが上半期に含まれます。これらの追加要因の影響をすべて控除後、業務の効率化と良好な地域別売上構成により、売上総利益率が0.6ポイント増加しました。

主に業務量の増加、アウトソーシング戦略の影響のほか、AtheroGenicsおよびAvanirとの事業提携に関する第1

四半期の無形資産償却引当金が含まれ、2007年上半期の実質研究開発費は前年同期比20%増の23億3,800万ドルでした。事業再編費用とMedImmune社関連費用を除く販売・一般管理費は、2006年の上半期より1%減となりました。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます。上半期の正味利益は900万ドルでした（前年同期は2,100万ドルの損失）。他の公正価格変動額の1,100万ドルは損益計算書上別の項目に計上されました。

## 事業再編費用

2007年4月、当社は事業の長期的効率向上のため、グローバルサプライチェーン内の資産活用改善プログラムに加え、生産性向上の取り組みを前倒しする計画を発表しました。6月30日時点で、取締役会は以下のプログラムを承認しています。

	総プログラム 見積額 100万ドル	6月30日 計上分 100万ドル
<b>売上総利益</b>		
グローバルサプライチェーン	750	281
<b>販売・一般管理費</b>		
欧州営業組織再編費用	300	146
ISおよび事業インフラ	450	2
<b>研究開発費</b>		
臨床、薬事および疾患領域戦略の再編費用	100	29
<b>合計（報告ベース）</b>	<b>1,600</b>	<b>458</b>
<b>うち現金費用:</b>	<b>1,300</b>	<b>439</b>

グローバルサプライチェーンの生産性向上の取り組みは順調に進行しており、今後の売上総利益率を更に改善するための新規プログラム追加のため拡大されました。これらのプロジェクトのため、1億5,000万ドルの追加費用が発生します。総プログラムに関する2007年の費用は、現時点では3億5,000万ドルと予想され、全額回収は、キャッシュベースで3年間と予測されており、人員削減総数は約3,300人と推定されます。

当社は、今後3年間に欧州で必要な営業・マーケティングの人材について戦略的な見直しを行い、合計約1,800人の人員削減のための様々なプログラムを決定しました。再編費用総額は約3億ドルと予測され、そのうち約2億ドルを2007年に計上します。再編後のコストベースの改善により、2007年からその効果が現われ始め、2009年までに全額回収される予定です。

ISおよび事業支援インフラにおいては、より一層グローバルのスケールメリットを活用する生産性向上および戦略的調達を中心としたプログラムにより、約1,800人の人員削減を想定しています。これらプログラムの総費用は、約4億5,000万ドルと予測しており、そのうち約2億5,000万ドルは、2007年に計上する予定です。2009年までに全額回収される予定です。

研究開発の再編活動および費用には、以前発表した疾患領域戦略の実施、グローバル薬事機能の効率化および大幅に効率化された臨床データマネジメント能力の構築計画が含まれます。約700人の人員削減を想定しています。合計で、研究開発事業再編費用約1億ドルを今後2年間で予定しており、その大部分を2007年に計上します。2009年までに全額回収される予定です。

当社は、事業の長期効率化に向けたさらなる取り組みを模索し続けます。上記詳述した人員削減はすべて、労使協議会、労働組合および他の雇用者代表と協議のうえ、各地の労働法に従って行う予定です。

## Toprol-XL™

上半期においては、Toprol-XL™ は、米国売上6億7,000万ドル（2006年7億3,200万ドル）、1株当たり利益0.27ドル（2006年0.26ドル）寄与しました。現時点まで、1種類のToprol-XL™錠（力価25 mg）のみが後発品の競合に直面しており、今後その他の力価の後発品が発売されるかどうか、またその時期については予想することはできない状況です。Toprol-XL™を当期および前年同期から控除すると、売上成長率は9%（報告ベースでは8%）となり、1株当たり利益の成長率は、ゼロ（報告ベースでは1%増）となります。同様に、第2四半期は、売上高は7%増（報告ベースでは6%増）で、1株当たり利益は13%減（報告ベースでは11%減）となります。

## 利息・配当収入

上半期の正味利息・配当収入は1億1,500万ドル（2006年1億4,600万ドル）、第2四半期期では1,800万ドル（2006年7,800万ドル）でした。前年同期からの減少は、主にMedImmune社買収のための借入れに対する借入利息によるものです。報告額には、上半期1,600万ドル（2006年2,400万ドル）、IAS（国際会計基準）19号「従業員給付」に規定の従業員給付基金の資産と負債による利息収入として800万ドル（2006年1,200万ドル）を含みます。

## 税金

本年第2四半期の実効税率は27.8%（2006年27.5%）、上半期は29.5%でした（2006年28.9%）。通年の税率は約29%と予想され、MedImmune社の買収による大きな影響はないものと予想されます。

## キャッシュフロー

当上半期のフリーキャッシュフロー（買収または株主への分配に利用できる正味現金流入額）は、2006年の29億2,200万ドルに対して、26億6,200万ドルでした。当期は、主に運転資金と税金の増額の結果により、フリーキャッシュフローは減少しました。株主還元額は39億1,000万ドルでした（20億3,200万ドルの正味株買戻し額と配当金18億7,800万ドルを含む）。MedImmune社とArrow Therapeutics Limitedの買収投資金額は、145億4,300万ドルでした。これをMedImmune社の正味負債8億8,600万ドルと合算すると、当期初頭には65億3,700万ドルの正味資金が、6月30日時点で100億8,800万ドルの正味負債となりました。

当期の営業活動による現金収入は31億8,400万ドルであり、2006年から2億3,700万ドル減少しました。減額は、支払い税金4億6,800万ドルの増加と運転資金増による2億3,700万ドルの現金支出によるもので、これは、営業利益増（キャッシュ以外の項目を追加払い戻し後）を相殺する以上のものとなりました。

当期の投資事業による正味現金支出は、2006年の1,100万ドルに対して144億9,300万ドルでした。これは、主に上記買収に関する145億4,300万ドルの支払いによるものです。

## MedImmune社の買収

### (i) 買収会計

MedImmune社の買収に引き続き、独立査定を実施し、IFRS（国際財務報告基準）第3項「合併」に従って、購入金額を資産と負債（有形資産、無形資産および繰延税金を含む）とのれんに割当てました。まとめると、139億ドルの発行済株式購入価格は、83億ドルの無形資産（Synagis™およびNumax™ RSVフランチャイズ、Flumist™およびEthyol™さらに開発中の製品に関わる資産を含む）と、86億ドルののれんと30億ドルの正味負債に割当てられました。厳格に会計基準指導に基づく場合、この割当は、買収会社が獲得する相乗効果、特定製品の追加適応症の可能性、革新的な生物製剤市場における確立された評価の高い事業による付加価値などの要素を別途認識する余地は与えられていません。このような要素は、償却されないのれんの中に組み込まれています。このように無形資産の残高を保守的に査定したことにより、償却費用は買収時想定された7億5,000万ドルに比較して年間約4億2,000万ドルとなります。

### (ii) 相乗効果

買収発表時点で、当社は、5億ドルの相乗効果目標を掲げました。現段階では、2009年に4億5,000万ドル、2010年には5億ドル以上の相乗効果を計画しています。相乗効果の内訳は、以下のとおりです。

	100万 ドル
営業・マーケティング費用	50
一般管理費	55
製造	25
AZ生物製剤投資 <sup>2</sup>	205
小分子	115
<b>合計</b>	<b>450</b>

これらの費用削減額は、すべての部署における重複を省き、2社の組織内での能力やポートフォリオを総合的に検討した結果算出されたものです。また、アストラゼネカで計画している資本支出はもはや不要となり、5億ドル以上の経費削減となります。必要なプログラムの実施費用は、約3億7,500万ドルと予想されます。

### (iii) Flumist™ アップデート

5月25日、MedImmune社は同社の英国製造工場（英国-1工場）におけるコンプライアンス問題に関して、FDAから警告文を受領したとする記者発表を行いました。その結果、MedImmune社は現在米国でのFluMist™の販売を禁止されています。さらに、当該ワクチンの適応を2歳～5歳の幼児へ拡大するFDAの承認が遅れています。当社は英国-1工場に関するFDAの観察事項を重大に受け止めており、できるだけ早急にFDAの懸念事項を取り除くべく尽力している最中です。これにむけ、当社はFDAに6月7日付警告文に対する正式回答および7月11日付初回定期進捗報告書など数々の文書、計画書および査定書をFDAに提出しました。

MedImmune社は、2007年/2008年のインフルエンザシーズンのFluMist™の売上を、2006年/2007年のインフルエンザシーズンの売上の75～100%増を予測していました。これは、液剤ワクチン（CAIV-T）および若年小児を含む適応拡大に関する承認を2007年のインフルエンザシーズン前に取得するとの想定に基づいていました。液剤は、2007年1月に承認されましたが、当該警告文によって、今期シーズンに改良FluMist™を再発売するその他の重要な手続きが明らかに遅れることとなります。現時点で、当社は、米国でインフルエンザシーズン前にFluMist™を販売できるようにFDAと警告文に関して解決できるものと確信しています。従って、当社は、前述の予測値の低値付近の2007年/2008年のシーズンの売上を達成するものと引き続き確信しています。

## 投資

6月に、当社はゾーミッグ™に関連した売上に基づく一連のマイルストーン支払いの最終分として4,800万ドルの支払いを実施しました。

7月には、当社は独自のsiRNA分子創薬のためSilence Therapeutic plcと3年間の研究開発業務提携を締結しました。当該契約は、主に呼吸器領域に関連したものです。当社の関心のある他の疾患領域まで業務提携を拡大する余地を持たせたオプションを付加しています。500万ドルの初回アクセス料は、無形資産として資産計上し、1,000万ドルの株式投資は、非流動資産投資として資産計上することとなります。

## 1株当たり中核利益

経営陣は、株主への還元を生み出す当社の能力を理解していただく情報として1株当たり中核利益を開示することによって、投資家の方々当社の実績への理解を深めていただけると信じています。1株当たり中核利益という指標は、再編および相乗効果プログラム、企業買収による多額の無形資産の償却および米国での現在および将来にわたる既存業務提携などに関わる費用および引当金等其他特定項目を除外し、調整するためのものです。1株当たり中核利益は、IFRS（国際財務報告基準）に沿った1株当たり利益ではありませんので、そのように見なされるべきではありません。

<sup>2</sup> AZの基本ケースおよび予測に含まれているのは、Cambridge Antibody Technologyを生物製剤創薬部門から独立した生物製剤開発会社として立ち上げるための投資金です。MedImmune社がこれらの技能をすでに有しているため、AZの社内投資は不要となりました。

1株当たり利益を調整した第2四半期および上半期1株当たり中核利益を以下に示します。

	第2四半期 2007	第2四半期 2006	CER %	上半期 2007	上半期 2006	CER %
1株当たり利益	\$0.95	\$1.02	-11	\$1.97	\$1.92	+1
事業再編費用	\$0.18	-	n/a	\$0.22	-	n/a
無形資産の償却						
MedImmune社の買収	\$0.02	-	n/a	\$0.02	-	n/a
メルク社との業務提携	\$0.02	\$0.02	n/a	\$0.03	\$0.03	n/a
<b>1株当たり中核利益</b>	<b>\$1.17</b>	<b>\$1.04</b>	<b>+9</b>	<b>\$2.24</b>	<b>\$1.95</b>	<b>+13</b>

## 株主還元と資本構造

MedImmune社買収に鑑みて、取締役会は配当方針と全体的な財務戦略の見直しを行いました。取締役会は、高い投資信用格付けを維持しつつ、当社事業、当社の株主および債権者の利益のバランスを取る必要性を認識しています。当社の150億ドルの総負債を今後3～4年間で目標60～70億ドルの長期負債（正味現金）に削減する計画です。財務再編は、本年末までに実施される予想です。

当社は、信用格付け機関と協議中で、以下の柔軟性をもたらす格付けを目標としています。

- さらなるパイプライン強化に必要な資金を提供する
- 当社米国有限責任組合から一部退職金とメルク社による2008年上半期の第1選択肢行使に備え資金調達する
- 目標レベルに達するために今後3～4年以内に借入金の支払い行う

このような環境下において、株式買戻しプログラムは、長期負債の目標額に達するまで、また、取締役会の目標とする信用度格付け、事業のキャッシュフローおよび投資機会をも考慮した上で、取締役会により年間を通じて見直しを行います。2007年株式買戻しプログラムは、約束された40億ドルのまま据え置きます。取締役会は、2008年の買い戻し額を1月の年間業績発表に関連して決定する予定ですが、現在のところ、買い戻し額は10億ドル前後と想定しています。

取締役の配当方針は変わりなく、報告ベースの収益（事業再編費用算入前）に併せて増額する予定です。この方針に従って、取締役会は、2007年の初回中間配当金普通株当たり0.52ドル（25.3ペンス、3.49SEK）を2007年9月17日付けで支払うことを発表しました。少なくとも2倍の配当倍率の維持を狙っています。

## 株の買い戻しプログラム

第2四半期に総額9億7,600万ドルを投じて、1,790万株を買い戻し、償却しました。本年度上半期で合計3,900万株を買い戻したことになります。株式選択権の行使を考慮し、上半期6ヶ月間に総額1億2,800万ドルで270万株を発行しました。

2007年6月30日現在の発行済株式総数は14億9,600万株です。

将来の利息収入の推定額にもとづき、株式買い戻しプログラムによって1株当たり利益は0.04ドル増額したことになります。

## 最新の研究開発パイプライン

本プレスリリースの発表に合わせて最新の研究開発パイプラインの表を更新しました。本表のコピーは、当社のウェブサイト、[www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com)の投資家向け情報のページに掲載しています。

上半期のパイプラインのハイライトは、第III相開発段階まで進んだ2つの化合物を含む、上市に向け第III相開発段階にある4件の新規プロジェクトです。

- 内分泌療法抵抗性前立腺がん治療に用いる特異的エンドセリンA受容体拮抗薬ZD4054は、第II相において良好な生存データを示し、第III相に移行しました。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブと共同開発中である2型糖尿病の当該クラスで最初の経口SGLT2阻害剤のDapagliflozin (ダパグリフロジン) も第III相に移行しました。
- MedImmune社の買収により、第III相にある、呼吸器合胞体ウイルス (RSV) の新規モノクローナル抗体Motavizumabが加わり、今年、生物製剤承認申請 (BLA) を提出予定です。
- VEGF/EGF TKI阻害剤、Recentin™は、開発進行中の非小細胞肺癌および直腸がんへの適応以外に、再発神経膠芽細胞腫について第II相開発を開始する予定です。

イレッサ™第III相INTEREST試験は、主要目的を達成し、治療歴を有する進行非小細胞肺癌患者においてイレッサ™とドセタキセルに対する生存期間の非劣性が証明されました。EGFR-TKIが治療歴を有する進行非小細胞肺癌患者を対象とした化学療法との直接比較の第III相試験において非劣性を示したのはこれがはじめてのことです。当社は、当該成果を規制当局と協議中です。試験結果は、2007年9月に開催される世界肺癌学会で発表する予定です。

2007年7月、アストラゼネカは、2つの臨床試験の成績を基に、気分安定薬の補助剤として双極性1型障害患者の維持療法としてセロクエル™の新規適応についてFDAにsNDA (適応追加申請) を提出しました。蓄積されたデータによれば、セロクエル™と気分安定薬に割当てられた患者の高血糖レベルに達する血糖値上昇の割合が、プラセボと気分安定剤に割当てられた患者と比較して高かったことを示しています。セロクエル™の米国添付文書を改訂し、これらのデータに関する追加詳細を記載しました。

2月1日以降10の新規化合物が初めて臨床段階に移行したことで、今年は今現在までに合計14に達し最高記録となりました。まだ、下半期に予定しているものがいくつかあります。

14製品が臨床開発段階にあり、さらに28件のプロジェクトを擁するMedImmune社のポートフォリオが加わったことによりパイプラインが大幅に強化されました。MedImmune社のポートフォリオの多くは、モノクローナル抗体やワクチンです。この膨大な開発・抗体医薬品生産能力により、アストラゼネカに、予定より大幅に早い時期に、業界をリードするバイオ医薬品群を提供する能力と技能が備わりました。

パイプライン全体には、現在157件のプロジェクトがあります。2007年2月1日以降、20件のプロジェクトが次の開発段階へ進み、53の化合物 (MedImmune社からの42件の新規プロジェクトを含む、このうち14件が臨床段階) が追加され、16の化合物が中止となりました。

当社のプロジェクト推進について大きな進展がありました。過去2年間で、開発期間の短縮に明らかな進歩を示し、初回の正式な毒性試験から初回承認まで8年とする当社の目標に近づきつつあります。この目標は、全プロジェクトを通じた中央値であり、いくつかのプロジェクトについては、さらに短い期間で進行することを期待しています。

パイプラインの品質改善と後期ポートフォリオを強化することに加え、研究開発部門を、より少数で機動的な組織に再編しつつあります。前回発表した疾患領域戦略を実施し、また、薬事・薬制部門も変更し、双方とも費用削減し、効率化を実現しています。さらに、臨床部門で、中枢でない業務を外部委託する予定で、最初は、データ処理業務が対象になります。現在まで発表している再編で約700人の人員削減になります。

## カレンダー

---

2007年11月1日  
2007年12月6日

2007年第3四半期・9カ月累計業績発表  
バイオ医薬品に関するビジネスレビュー

最高経営責任者  
David Brennan